

チェルノブイリ事故35周年の集い

フクシマ10年と結んで



2021年4月24日(土) 午後2:00~4:30

大阪市立総合生涯学習センター (第1研修室)

大阪駅前第2ビル5階 (資料代: 800円, 学生・避難者・障がい者: 400円)

プログラム

1. <基調報告・提案> チェルノブイリ35年・フクシマ10年に際して
~チェルノブイリ・フクシマを繰り返させない

原発事故被害者の補償・人権の確立に向けて~

*国連人権理事会への意見書の提案

2. 東日本大震災・フクシマ事故10年

~紙芝居で伝える体験と想い~

動く紙芝居(アニメ) 「なみえ母娘避難物語 私は帰らない」 (DVD上映)

なみえ物語つたえ隊 岡洋子さん・美里さん (母娘, ビデオ・メッセージ)

3. <歌> 故郷を想い歌う: アカリトバリ さん

4. チェルノブイリからのメッセージ

5. 討論・アピール

私たちは、昨年のヒロシマ・ナガサキ75年に引き続き、今年、フクシマ事故10年・チェルノブイリ事故35年に際して、改めて「フクシマを核時代の終わりの始まりに」との思いを新たにしています。チェルノブイリ・フクシマを繰り返させてはなりません。そして、原発事故被害者の補償と人権の確立を求めて、被害者の方々とともに進んで行きたいと思えます。その取り組みのひとつとして、チェルノブイリとフクシマの被害者とともに、原発事故被害者と連帯する世界の多くの人々の賛同も得て、「共同意見書」を9月の国連人権理事会(第48回会合)に提出する予定です。集いでは、その「意見書」の提案と議論もしたいと思えます。

コロナ禍のため、残念ながらチェルノブイリやフクシマの被災地からのゲストをお迎えすることはできませんが、映像でメッセージを寄せて頂きます。フクシマからは、浪江町からの避難者で、震災と原発事故の体験を紙芝居で広く伝える活動をされている岡洋子さんと長女の美里さんのメッセージ、母娘と一緒に出演された紙芝居のDVDを上映し、震災・原発事故の体験と想いを共有したいと思えます。ぜひ、ご参加ください。

なお、感染予防対策には十分配慮したいと思います。マスク着用と手指消毒をお願いします。発熱や咳など症状のある方は、ご遠慮ください。皆さんの事情が許す限り会場へのご参加をお願いしたいと思えますが、会場とオンライン(Zoom)で、並行して開催しますので、Zoomでのご参加をご希望の方は4月22日までに下記メールアドレスまでご連絡ください。また万一、感染急拡大の場合は、Zoom開催のみになる可能性もあり得ますので、会場の開催の可否がわからない場合は事前にお問い合わせ下さい。

主催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

<問合せ> 電話: 072-253-4644(いのまた), 0797-74-6091(たなか), e-mail: chernob-kansai@titan.ocn.ne.jp

関西初上映!

介護施設に勤務しはじめたばかりの娘は懸命にお年寄りの世話をし救助を待っていた。慣れぬ仕事、重労働に娘は倒れる。命の危険が迫る中、施設長は娘を迎えに来るよう母に電話する。その横で「帰らない」と叫ぶ娘、修羅場だった。母は娘のそばにいる施設長に「私に代わって娘を抱きしめてほしい」と頼む。

(「東日本大震災10周年事業 未来に伝えたい10の物語 ふくしま絵うた本プロジェクト」による「なみえ母娘避難物語『私は帰らない』」の紹介文より)

原発事故により広がる放射能汚染、日本中の人は、若い者だけでも逃げる。と心の中で叫んだと思います。しかし、100人以上の高齢者を抱える介護現場で、そんなことができるはずはありません。見えない恐怖に立ち向かいながら、帰らないと現場に踏みとどまる娘に対し、迎えにもいけない、帰れとも言えない。母が電話口でできたのは自分に代わり、娘を抱きしめてもらうことでした。

私は帰らない

なみえ母娘避難物語

文・絵 / いくまさ鉄平

制作:一般社団法人まち物語制作委員会
協力:浪江まち物語つたえ隊

岡洋子さんのプロフィール

福島市出身。浪江町の大規模農家に嫁ぐ。農業の傍ら、婦人消防隊などでも活動。東日本大震災当日は、たまたま二人の娘と一緒に宮城県名取にいて、翌日なんとか浪江に戻る。当時、介護福祉士として町の介護老人福祉施設で働いていた長女は、非番だったがすぐに施設に駆けつけ、大勢のお年寄りに付き添い避難を始めて転々と移動…その時の母娘の体験をもとに作製された紙芝居が「なみえ母娘避難物語 私は帰らない」。娘の帰りを待って3月14日まで浪江の自宅に留まった後、福島市に避難。

2014年から「浪江まち物語つたえ隊」に参加。大震災と原発事故の被害の体験を紙芝居を通じて発信している。関西では2017年に紙芝居アニメ「浪江消防団物語 無念」の上演と合わせて講演。

